

平成26年12月期第2四半期

決算説明会

ご参考資料

平成26年 8月21日

大倉工業株式会社



OKURA

真心を包み、幸せを守り、技術を進化させる —

平成26年12月期

第2四半期決算説明会



平成26年8月21日
大倉工業株式会社

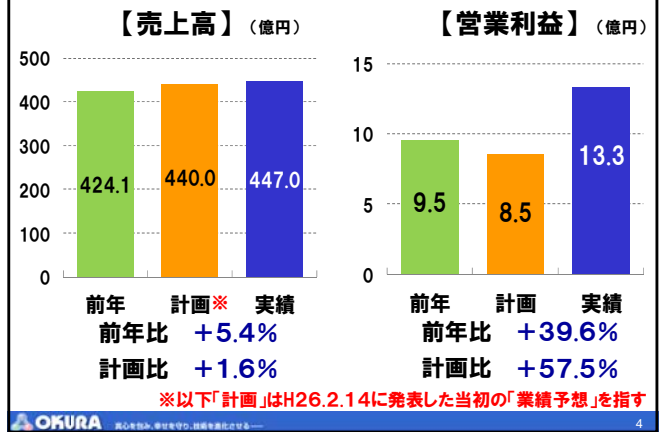
目 次

1. 第2四半期決算の概要

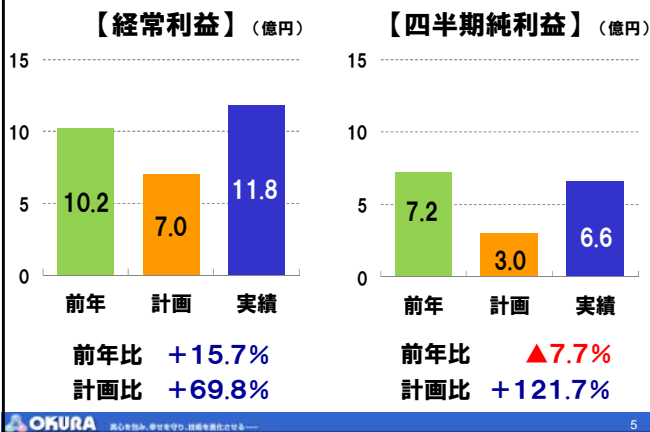
2. 通期の業績予想

1. 第2四半期決算の概要

第2四半期連結累計期間



第2四半期連結累計期間



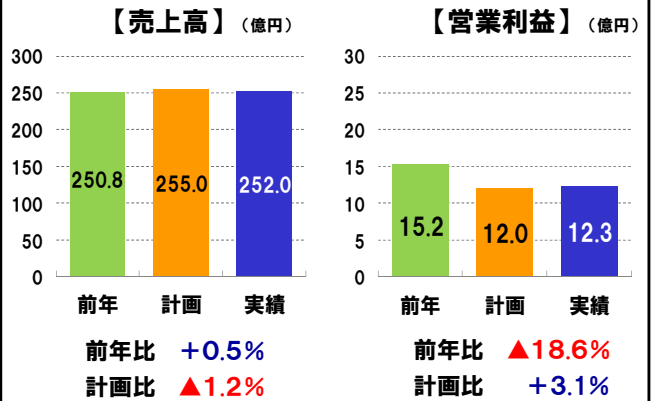
第2四半期連結累計期間

	（億円）			
	H25上期	H26上期	前年比	計画比
売上高	424.1	447.0	+5.4%	+1.6%
営業利益	9.5	13.3	+39.6%	+57.5%
経常利益	10.2	11.8	+15.7%	+69.8%
四半期純利益	7.2	6.6	▲7.7%	+121.7%
減価償却費	20.5	18.4	▲10.2%	—

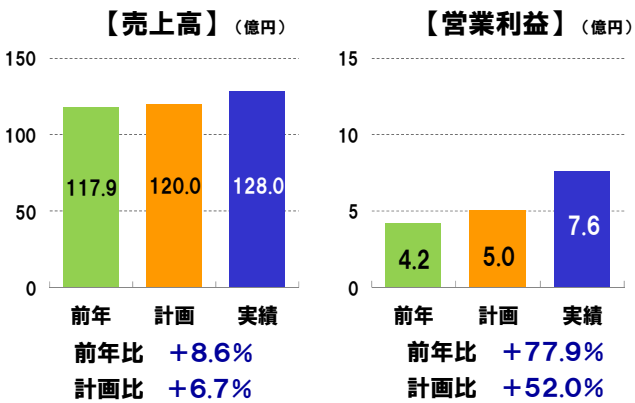
スマートフォンやタブレット端末向けの光学フィルムの販売が、好調であった新規材料事業を中心に営業利益が計画を上回る。償却前経常利益は賞与支払増等により前年を下回る

セグメント別の概要

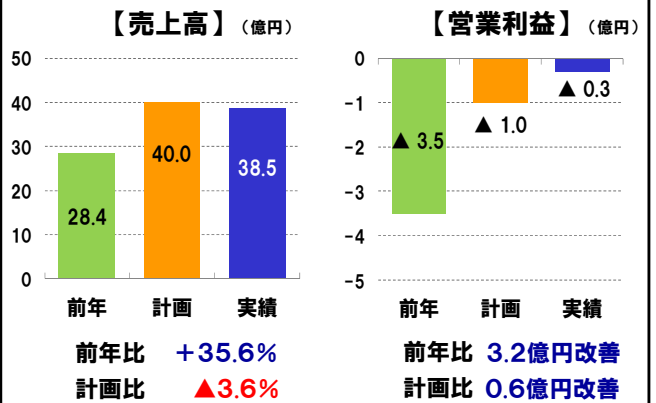
合成樹脂事業セグメント 第2四半期連結累計期間



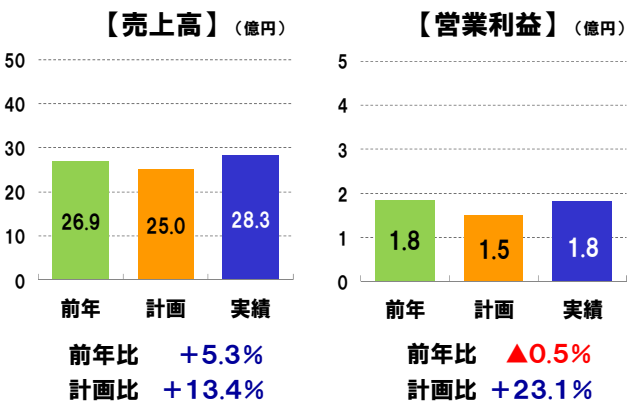
新規材料事業セグメント 第2四半期連結累計期間



建材事業セグメント 第2四半期連結累計期間



その他セグメント 第2四半期連結累計期間



キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書

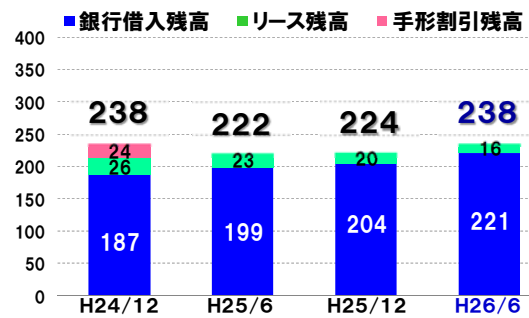
(億円)

	H25上期	H26上期
現金及び現金同等物期首残高	74.0	78.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	12.8	13.4
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲21.1	▲30.0
財務活動によるキャッシュ・フロー	4.1	9.5
現金及び現金同等物期末残高	70.4	71.2

新工場等の投資が増加

実質借入金残高(連結)

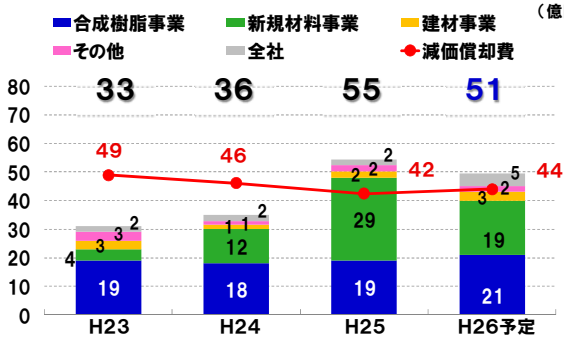
(億円)



銀行借入は増えたが、実質借入金は微増に止めた

連結減価償却費及び設備投資 (工事ベース)

(億円)



H25-26年は新工場建設により減価償却費を上回り投資

2. 通期の業績予想

通期業績予想

マクロ見通し

消費税率引き上げに伴う需要の変動はあったものの、駆け込み需要反動の影響から脱しつつあり、景気は基調としては引き続き緩やかな回復局面に

売上高

建材の売上回復が寄与し、全体でも増収

営業利益

建材の赤字が引き続き縮小し、全体でも増益

通期業績予想

(億円)

	前期実績	通期予想	前年比
売上高	906	935	+3.1%
営業利益	20.1	26.0	+29.3%
経常利益	20.1	23.0	+14.4%
当期純利益	16.0	21.0	+30.8%

営業利益、経常利益の上期進捗率は5割程度であり
通期予想は当初のまま変更しない

通期業績予想 売上高

(億円)

	前期実績	通期予想	前年比
合成樹脂事業	507	525	+3.5%
新規材料事業	278	270	▲3.1%
建 材 事 業	63	85	+32.8%
そ の 他	56	55	▲3.0%
合 計	906	935	+3.1%

通期業績予想 営業利益

(億円)

	前期実績	通期予想	前年比
合成樹脂事業	24.7	26.0	+5.2%
新規材料事業	14.0	15.0	+6.4%
建 材 事 業	▲5.8	▲0.5	-
そ の 他	4.3	3.5	▲18.7%
調 整 額	▲17.1	▲18.0	-
合 計	20.1	26.0	+29.3%

【合成樹脂事業】

「量の拡大」の追及と不採算事業・製品の再構築

- 量の確保と原材料価格上昇への即応
- 生産加工技術力のアップ

・ 価格転嫁は進んだものの原料価格動向は不透明

<下期>

- 関西オークラ新工場を中心に新たな販路と製品の開拓
- コスト構造の変革
(不採算製品の見直し、設備更新、人員再配置)

【合成樹脂事業】「量」の拡大

コモディティ製品を取り扱う連結子会社関西オークラにて食品ユーザーの要求を満たす衛生環境を備えた新工場が稼働



H26年6月

投資額:19億円 H26年6月生産開始

ほぼ計画どおりに立上がり、今後早期にフル稼働を目指す。

【新規材料事業】

精密溶融押出・精密塗工技術を駆使し、タッチパネル市場での高度な要求品質に対応

- 仲南G棟の確実な立上げの推進

・ 仲南G棟はユーザー認定遅れと原料供給不足

<下期>

- 10月生産開始予定(計画:4月開始)
年内には原料不足も解消し垂直立ち上げ

【新規材料事業】「質」の追求

液晶ディスプレイ向け光学フィルムの新しい生産技術に対応した工場 (仲南G棟)



投資額:33億円

H26年1月～試運転～認定
10月生産開始予定

【建材事業】

パーティクルボード事業の本格復興と 建装材事業の構造改革により下期黒字化へ

- PBラインの品質向上と保証体制の再構築
- PBの拡販及びラミネート技術を強みとする製品群の拡充

<下期>

- ユーザー直結のフロア製品の拡販によりフロアの販売比率UP
営業損益:H26年▲50百万円(前期比5億円強改善)

【R&Dセンター】

要素技術の更なる深化を進め成長分野での 事業拡大と機会探索

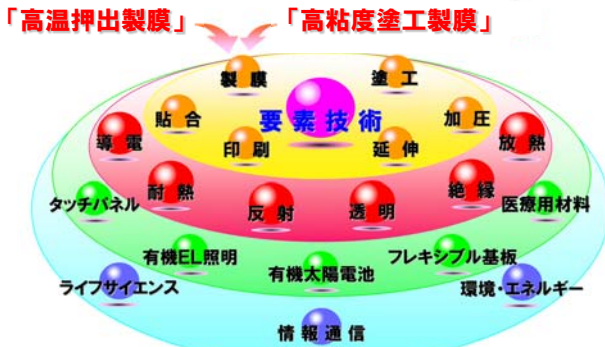
- 高粘度塗工製膜・高温押出製膜の要素技術を駆使して、事業化に向けた新規開発テーマを推進
- 塗布型透明導電フィルムは、既に2社で大型画面用途で採用。更に数社でサンプル評価中

<下期>

- 塗布型透明導電フィルムは、今後、小型画面用途（スマートフォン、タブレット端末）もターゲットに

【R&Dセンター】 開発の方向性

<開発の方向性>



業績予想・事業計画に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。

平成26年8月21日

平成26年度第2四半期決算説明会資料

大倉工業株式会社

1. 売上高の推移

イ. 各部門別の業績推移

(単位：百万円、%)

部 門		平成24年度第2四半期		平成25年度第2四半期		平成26年度第2四半期	
		金 額	増 減 率	金 額	増 減 率	金 額	増 減 率
売 上 高	合 成 樹 脂 事 業	24,502	△ 5.9	25,080	2.4	25,206	0.5
	新 規 材 料 事 業	9,846	△ 6.8	11,798	19.8	12,809	8.6
	建 材 事 業	3,099	△ 32.9	2,842	△ 8.3	3,854	35.6
	そ の 他	2,504	12.8	2,691	7.5	2,835	5.3
	計	39,953	△ 8.0	42,412	6.2	44,705	5.4
営 業 利 益	合 成 樹 脂 事 業	1,794	△ 18.0	1,520	△ 15.3	1,236	△ 18.6
	新 規 材 料 事 業	753	62.5	427	△ 43.3	760	77.9
	建 材 事 業	△ 972	—	△ 359	—	△ 37	—
	そ の 他	141	59.3	185	31.1	184	△ 0.5
	調 整 額 (注)	△ 778	—	△ 814	—	△ 805	—
	計	939	△ 37.7	958	2.1	1,338	39.6
経 常 利 益		860	△ 34.7	1,027	19.4	1,188	15.7
四 半 期 純 利 益		581	△ 61.4	720	23.8	665	△ 7.7

(注) 調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

ロ. 販売数量の推移

(増減：%)

部 門 名		単 位	平成24年度第2四半期		平成25年度第2四半期		平成26年度第2四半期	
			数 量	増 減 率	数 量	増 減 率	数 量	増 減 率
合 成 樹 脂		トン	56,353	△ 7.9	59,136	4.9	55,807	△ 5.6
建 材	加 工 合 板	千枚	1,013	△ 9.2	1,122	10.7	1,135	1.1
	ハ ー ティ ク ル ホ ー ト	トン	22,981	△ 53.5	17,841	△ 22.4	37,827	112.0
住 宅	土 地	区画	9	△ 10.0	12	33.3	11	△ 8.3
	建 物	戸	13	44.4	20	53.8	14	△ 30.0

(注) 上記数量には仕入商品の販売数量を含めております。

2. 設備の状況

イ. 設備投資の推移（工事ベース実績及び計画）

（単位：百万円）

部 門	平成 24 年 度	平成 25 年 度	平成 26 年 度 第 2 四 半 期 実 績	平成 26 年 度 計 画
合 成 樹 脂 事 業	1,891	1,907	1,669	2,142
新 規 材 料 事 業	1,283	2,916	1,369	1,958
建 材 事 業	144	213	37	380
そ の 他	357	490	187	713
合 計	3,677	5,528 (注)1	3,264 (注)2	5,195 (注)3

- (注) 1. 国庫補助金等が平成26年度以降に交付される予定の為、実質投資額は5,196百万円であります。
 2. 国庫補助金等により40百万円を圧縮しております。また、平成26年度下半期以降の交付予定分もあることから、実質投資額は3,030百万円であります。
 3. 国庫補助金等(267百万円)を圧縮した投資額であります。

ロ. 設備投資計画

平成26年度の実施中及び計画の主なものは次の通りです。

（単位：百万円）

事 業 所 名	設 備 内 容	金 額
合樹 関西オークラ	工場建設工事及び合成樹脂フィルム製造装置	1,487
新 規 材 料 事 業	工場建設工事及び光学フィルム製造装置	866
	工場改造工事	680

3. 減価償却費の実績及び予定

（単位：百万円）

部 門	平成 24 年 度	平成 25 年 度	平成 26 年 度 第 2 四 半 期 実 績	平成 26 年 度 予 定
合 成 樹 脂 事 業	2,048	1,877	845	1,995
新 規 材 料 事 業	1,077	1,123	489	1,322
建 材 事 業	962	705	275	590
そ の 他	519	531	231	494
合 計	4,609	4,238	1,842	4,403

4. 金融収支推移表

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度 第2四半期実績	平成26年度予定
金額	△ 323	△ 230	△ 102	△ 226

5. 平成26年度の業績予想について

(単位：百万円、%)

項目		下半期予想	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	合成樹脂事業	27,293	52,500	1,771	3.5
	新規材料事業	14,190	27,000	△ 854	△ 3.1
	建材事業	4,645	8,500	2,100	32.8
	その他	2,664	5,500	△ 170	△ 3.0
	計	48,794	93,500	2,847	3.1
営業利益	合成樹脂事業	1,363	2,600	128	5.2
	新規材料事業	739	1,500	90	6.4
	建材事業	△ 12	△ 50	538	-
	その他	165	350	△ 80	△ 18.7
	調整額(注)	△ 994	△ 1,800	△ 86	-
	計	1,261	2,600	589	29.3
経常利益		1,111	2,300	289	14.4
当期純利益		1,434	2,100	494	30.8

(注) 調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社費用であります。